



東小だより

学校だより 9月号
令和6年8月30日
昭島市立東小学校
校長 鈴木 正樹

成長の2学期に

校長 鈴木 正樹

学校中に子供たちの声が響き渡り、学校に活気が戻ってきました。報道では、全国各地で猛暑や台風の影響による災害や事故、事件等が毎日のように報じられていましたが、子供たちは安全に健康な生活を送ることができたのでしょうか。今年度の夏休みは記録的な猛暑の日々ではありましたが、子供たちは、夏休みにしか経験できないような様々な貴重な体験ができたのではないのでしょうか。

2学期は、学校・学年での大きな行事が続きます。子供たちは、これらの行事での多くの体験を通じて様々な力を身に付けて成長していきます。

「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことは分かる。」とよく言われます。「荀子」儒効篇では、「不聞不若聞之、聞之不若見之、見之不若知之、知之不若行之」（聞かないことは聞くに及ばず、聞くことは、見ることに及ばない。また見ることは、理解することに及ばない。しかし理解することは、それを実践することに及ばない。したがって学問は実践の段階にまで至って終わるのである。※出典「中国名言名句辞典」小学館）とあります。体験活動の大切さ、また実践できる力を養うことの大切さをよく言い表していると思います。

体験には、「原体験」、「自然体験」、「社会体験」、「奉仕活動体験」等、様々なものがあります。学校生活の毎日にも新たな体験活動があります。学習体験もその一つです。休み時間に友達と遊ぶこと、給食の準備をして仲良く食べること、掃除の時間に教室や学校の中をきれいにする。まさに毎日が体験活動であり、その中で子供たちは人として必要なことを学んで成長しています。学んだことを知識としてたくわえることだけが目的ではありません。今、求められている力は、学んだことを基に、自分で考え、創造し、実践していく力です。実践の段階では試行錯誤を繰り返し、失敗することもあるでしょう。逆に失敗の数だけまた成長していくかもしれません。

体験したことを身に付けるために三つの大切なことがあります。①体験のめあてをしっかりと。ただ何となくやってみた、こんなことをやらされた、では何も身に付きません。②体の全感覚を使って、「なぜだろう、どうしてだろう。」と問い掛けをもって考える。自身の考えをもって体験することで、より深く自分の力となります。③様々な体験の中での人との関わりを大切に。一人ではできないことも力を合わせればできることがたくさんあります。力を合わせてきたことは何よりの宝となります。

2学期は、「開校70周年記念運動会」、「開校70周年記念音楽会」と大きな学校行事が続きます。これらの体験の機会は子供たちがより成長するための貴重な時間となります。まだまだ暑い日が続く熱中症等の心配・不安がありますが、対策を十分に講じて安全を第一に考え、子供たちの成長に向けて学校全体で指導・支援を充実させていきます。御理解と御協力をお願いいたします。

【高学年（5・6年）における教科担任制の一部導入について】

2学期より高学年（5・6年）において、教科担任制を一部導入します。教科担任制実施の目的は、小学校から中学校へのスムーズな移行、教員の専門性向上、学団・学年・学級共同経営等です。「国語」（週3時間）は6年1組担任の田中、「社会」（週3時間）は5年1組担任の瀧村、「外国語」（週2時間）と「国語」（週1時間）は6年2組担任の今井が担当します。御承知おきください。